

第八回 九州戯曲賞 最終審査過程

九州地域演劇協議会まとめ

■ 最終審査日時等

平成29年7月21日（金） 福岡市内会場

■ 最終候補作品（5作品）

守田 慎之介 （福岡県行橋市）『ハレハレ。』

石田 聖也 （福岡県福岡市）『反復する、イクツカノ時間と、交わる、イクツモノ時間の中で、僕等にできる、イクツカノこと。』

瀧本 雄壱 （福岡県福岡市）『末枝の沙果』

福田 修志 （長崎県長崎市）『たゆたふ』

米田 翔太 （鹿児島県鹿児島市）『戦略的未亡人 みちるさん』

■ 最終審査員

中島かずき 市原佐都子 桑原裕子 松井周 佐藤信

■ 審査結果

大賞 守田 慎之介（福岡県行橋市）『ハレハレ。』

■ 授賞方針等

- ・大賞作がでた場合、原則として他の賞は出さないものとする。
- ・大賞作の水準に達する作品がない場合は、大賞なしとする。
- ・大賞作がない場合、佳作・奨励等の賞を出すことができる。

■ 審査過程

各作品について、審査員からの講評を行う。

守田慎之介「ハレハレ。」(福岡県行橋市)

坂が多い海のある町、恒例の餅つきの準備をする一軒家。そこに住む高校生と餅つきの手伝いにやってくる高校生との物語。登場人物は全て高校生。

高校生の将来の新生活への夢と憧れ、心細さが見渡せてすごく良い。単純ないい話にながれず、派手な小道具を使わずに心の機微や生活の匂いを感じさせた点を評価する声があがる。また、高校生がおとなしすぎるのではないかと、登場人物などがフラットに読めるということで議論があった。起伏の少なさや熱量の低さを指摘する意見もあった。

石田聖也「反復する、イツカノ時間と、交わる、イツモノ時間の中で、僕等にできる、イツカノこと。」(福岡県福岡市)

メタシアターの方法をとった作品。浅間山荘事件・ベルリンの壁の崩壊といった壁に関わった人たちと、演劇論や作品を上演する演出家と役者の関係性を重層的に構成している。

独自の文体をしっかりと作ってしまえば、面白い試みだと思う。演出家と神様をつなげていること、それぞれが誰かに操られているように、誰かに遊ばれているような少年少女につながっていくような構造が良いという意見がある。一方、上演の形が戯曲から見えてこないことや、難解さについて行った後にそれに見合うものがあるのかという見方があった。

瀧本雄壱「末枝の沙果」(福岡県福岡市)

16世紀の中頃に種子島に伝わった火縄銃を巡る人間ドラマ。若干の創作の他は、史実に忠実に描かれており、エンターテインメント性の高い仕上がりになった。

こういうエンターテインメント作品に取り組むには相当な技術がいる。知の欲求というテーマに触れているところが良い。苦労して書いたことが伝わってきたという評価がある。一方で、こういう作品ではギャグの要素がより欲しい。全体としてわかり易すぎるので、わからない部分がほしかった。という指摘があった。

福田修志「たゆたふ」(長崎県長崎市)

人間の労働力に取って代わる人工生命体「たゆたふ」と人間とを描いた、近未来の小さな喫茶店での話。非常に人間に近い「たゆたふ」の記憶が重要な鍵となる。

テーマ・設定が面白い。人工生命体が田舎にまで根付いている空気感はすごくよかった。「たゆたふ」を扱う会社やハンターの登場など、小さい世界ながらも外を向いている感じがして面白かった。他方、「たゆたふ」の存在を作家が持て余していいないだろうか、最後に回想で全部を説明してしまうという流れはどうなのかという評価があった。

米田翔太「戦略的未亡人 みちるさん」(鹿児島県鹿児島市)

SNS に入りびたるひきこもりのネカマ青年が、亡くなった父のパソコンから十数年前に閉鎖されたチャットサイトに入る。ネット社会の成りすましや家族をテーマとした物語。

スピード感・軽やかさのある筆致でひどいことを書いているのに読ませる。場面場面面白く感じて、ネーミングとか単語がざわざわってする。タイトルが素晴らしい。ところどころに入ってくる独白は不要ではないか、最後は何か行きつけなかった感じがして、小さくまとまってしまったのが惜しいと思った等の講評があった。

(休憩)

各作品の講評に続いて、審査員の持ち票を各2票として1回目の投票を行う。

「ハレハレ。」 3票

「末枝の沙果」 2票

「たゆたふ」 2票

「戦略的未亡人 みちるさん」 3票

票が割れたためこの4作品に絞って、票数1票とし2回目の投票を行う。

「ハレハレ。」 1票

「末枝の沙果」 2票

「戦略的未亡人 みちるさん」 2票

この投票結果を見て、3作品に絞って審査を行う。それぞれの作品についての強み弱みについて議論を重ねていき、票数1票とし3回目の投票を行う。

「ハレハレ。」 1票

「末枝の沙果」 3票

「戦略的未亡人 みちるさん」 1票

この投票結果に鑑み、最多得票作品を大賞とすることで良いかの確認を行ったが、より議論を深める必要があるということになった。

また複数作品ではなく1作品に絞って、大賞を決定する方向が確認された。

審査会場の退出時間となったため、会場を変更して引き続き審査を行う。

(審査会場変更)

さらに審議を尽くせるということならば投票の変更を行いたいという審査員からの表明があり、以下の票数となる。

「ハレハレ。」 1 票

「末枝の沙果」 2 票

「戦略的未亡人 みちるさん」 2 票

引き続き 3 作品についての議論を行う。議論の主軸は「ハレハレ。」「末枝の沙果」のいずれかに絞られていくが、決定的な結論に至らない。最終的に多数決で決定することもやむをえないとし、多数決にて決定するという前提にて、無記名投票を行った。

その結果は、以下のとおり。

「ハレハレ。」 2 票

「末枝の沙果」 2 票

「戦略的未亡人 みちるさん」 1 票

この投票結果を見て、同票ならばこうしようと思っていたという審査員による再投票があり、最終的に以下の票数となる。

「ハレハレ。」 4 票

「戦略的未亡人 みちるさん」 1 票

この結果を踏まえて「ハレハレ。」を大賞とすることについて全審査員の同意を確認し、「ハレハレ。」を大賞作品として選定した。

(審査開始 14 時 50 分)

(審査終了 19 時 5 分)